

【一般口演2】 第9席

『黄帝内経』における体質学説

石川 劉園英

【はじめに】人を先天的な体質によって分類する試みは、東洋医学においては早くから行われている。『黄帝内経』では数多くの頁を割いて、異なった体質の形成には異なった生理・病理素因との因果関係があることを解説している。さらに、相応する治療法について多くの論がなされている。ここでは、『黄帝内経』における体質論を取り上げ、体質の分類、体質に応じて治療法、特に補・瀉法について検討を行った。

【体質の分類】『素問』『靈枢』全葉経文の体質分類に関連する篇数は合計11篇。その中では1篇（血気形志第二十四）だけは『素問』に記載され、残る10篇はすべて『靈枢』（寿夭剛柔（06）・逆順肥瘦（38）・論勇（50）・論痛（53）・衛氣失調（59）・陰陽二十五人（64）・五音五味（65）・行鍼（67）・通天（72）・九鍼論（78））に記載されている。そこでは、人の体質を陰陽、気血の多少・五行帰属・体型等、すでに体質を類型化している。各類型の生理特徴は治療と密接な関係があると論じている。

【体質に関する鍼灸補瀉】『黄帝内経』では、体質に応じて治療法が主張されている篇は合計15篇である。その内に鍼灸の補瀉治則についての論述が認められるのは7篇であり、「瀉」の字句が見られるのは「血気形志（24）」「寿夭剛柔（06）」「逆順肥瘦（38）」「衛氣失常（59）」「五音五味（65）」「通天（72）」「九鍼論（78）」の7篇である。「補」の字句が見られるのは「血気形志（24）」「通天（72）」の2篇である。

【考察】『靈枢』の体質と関連ある篇は『素問』より遥かに多い。『素問』の体質分類は六経分類しかない、補瀉対応は有余不足が殆どである。『靈枢』の体質分類については陰陽・気血・寒熱・強弱等すでに体質を類型化している。補瀉対応は有余不足、盛虚、虚実、満虚等をはじめ多彩であった。これは『靈枢』に臨床的な記載がされる篇が多いのが一つの要因でもあると考えられ、もう一つは『靈枢』は鍼を中心に灸、按摩等の治療について具体的に記されており、それが体質に関する生理・病理・治療等の論述の多さにつながっていると推察される。

【結語】今回は体質の分類、体質に応じて補瀉法等をみることにより、体質の分類型、体質に応じて補瀉の意味するものが多彩であることが示唆された。体質に関する養生・体質は発病機序との関係を検討することが、今後の検討課題としたい。